

日本マス・コミュニケーション学会秋季研究発表会
参与観察およびインタビューによる、グローバルTVジャーナリズムの編集方針の比較研究¹

(2011)

A Comparative Study of Global TV Journalism by Participatory Observations and Intensive Interviews for their Editorial Policies
(2011)

鈴木 弘貴
Hirotaka SUZUKI

十文字学園女子大学 人間生活学部 メディアコミュニケーション学科 Jumonji University

要旨…各局の戦略の違いはあるにせよ、2, 3年という比較的短期間の経年的変化の中でも、確実に「グローバルオーディエンス」というターゲット像が明確になってきており、そのターゲットのニーズに合わせ、従来のパッチワーク的な単なる情報提供から「グローバルジャーナリズム」としての使命感と方向性を持った報道にシフトしていこうという動きがある。

キーワード グローバルジャーナリズム、CNN International, BBC World News, Al Jazeera English, 編集方針

1. はじめに一問題意識とこれまでの研究経緯

「グローバル化」と呼ばれる現象は、経済分野を中心に、今や政治・社会・文化とあらゆる諸相で論じられているが、筆者はこれまで、ニュースの収集・選択・解釈・流通というジャーナリズム活動におけるグローバル化、すなわち「グローバルジャーナリズム」について、その現状と限界、今後の可能性とその現象が意味する社会の方向性といったものを調査・研究・考察してきた。本研究は特にグローバルなニュースの選択・解釈、すなわち編集方針に焦点を当て、参与観察とインタビューによる分析を試みたものである。

ニュースが特に選択・解釈といった作業工程を経て生成されることからわかるように、元来、ニュースはそのニュースを生成しそれを消費する社会集団の価値基準の枠内に存在する文化的生成物であり、その社会集団の基本的な単位は国家・国民（以下、ナショナルと記す）であった。従来の「国際ジャーナリズム」研究は、こうしたナショナルなニュースの国際的な流通現象を対象にしていた。

しかし、科学技術の発展の後押しもあり、90年代後半から国境を越えた受容者を対象とするジャーナリズム（ここでは、便宜的にこれを「グローバルジャーナリズム」と呼ぶ）が現れるようになった。ここで生じられる問題は、これまでナショナルな受容者を対象に、ナショナルな視点で作られていたニュースと同様に、「グローバルな受容者」を対象にした「グローバルな視点」でニュースを生成することが果たして可能なのか、可能であるならばそれはどのような方法によるものか、という問いである。

一般にジャーナリズムの本質を多角的に検証するには、3方向からのアプローチが必要である。すなわち、1. 内容分析、2. 送り手研究、3. 受け手研究である。これら3つのアプローチは相互に関連しており、一つだけを切り離して研究しても決して「本質」にはたどりつけない。本研究テーマに関しては、これまで基盤研究B『欧米・イスラーム世界のメディアに見る「グローバル・ジャーナリズム」の展開』（2006-8年度）で内容分析と送り手研究（編集者へのインタビュー）を行った。受け手研究（オーディエンス調査）に関しては、学内共同研究（2009-10年度）で、日本におけるCNNIおよびBBCWNのオーディエンス調査および分析を試験的に行った。さらに、2010年度前半を海外研修にあて、今回研究対象としている海外5放送局をすべて再訪し、編集者・記者へのインタビューに加え編集プロセスの参与観察を行ってきた（送り手研究）。今回の研究発表はこれら一連の研究で、2度にわたり行った送り手研究の成果をまとめ、分析を加えたものである。

¹ 本研究は、科研費基盤研究B『欧米・イスラーム世界のメディアに見る「グローバル・ジャーナリズム」の展開』（2006-8年度）、放送文化基金による助成研究「参与観察法による、グローバルTVジャーナリズムの編集方針の比較研究」（平成21年度）、および十文字学園女子大学海外特別研修（2010年度前期）の成果の一部である。なお、本稿は2011年度秋季日本マスコミュニケーション学会における研究発表に向けて、当日の配布資料を減らすための補足資料の側面もあり、当日の発表原稿ではないことをお断りしておく。

2. 調査の方法

グローバル・トランスナショナルに展開する放送ジャーナリズムの中で、事実上のグローバル言語となっている英語を放送言語とし、1国に留まらないトランスナショナルな視点による報道を志向している、ユーロニュース、BBCワールドニュース、アルジャジーラ・イングリッシュ、チャンネルニュースアジア、そしてCNNインターナショナルを対象とした。インタビューは、2007年8月—2008年7月に一度目を行い、2010年5月—9月に2度目の調査を行った（ユーロニュースだけは1998年と2001年にも今回とはおのおの別人の編集局長へのインタビューを行っており、今回のユーロニュースへのインタビューには、前2回で得られた知見に基づいてなされている部分もある）。インタビューをした編集者・記者数は、延べ44名（1回目と2回目の訪問で同一人物にインタビューしたものは2重カウント）である。

インタビュー方法は、半構造化された形式で行った。共通する質問の趣旨は1. グローバルなオーディエンスに向けたニュースをどのように選択し、ストーリー化していくのか。そのための判断基準および方法はどのようなものか2. それを達成するためにどのような工夫を行っているか3. 自局のオーディエンス像をどうとらえているのか—の3点である。実際のインタビューでは、相手が答えやすいように、インタビューの直前に当該チャンネルおよび比較対象チャンネルが扱ったニュース番組の内容を利用した具体的な質問を補助的に使用している（例：今朝、00チャンネルとXXチャンネルを交互に見ていたら、00チャンネルはAのニュースを取り上げていたのに、XXチャンネルは取り上げていなかった。なぜか?）。質問の質の平準化のためインタビューはほぼ筆者単独で行った（2008年のCNNのFrank Sesno氏のみ、立命館大学の金山勉と共同）。なお、筆者は日本の通信社での記者経験があり、インタビューの前の自己紹介で調査の趣旨とともに必ず伝達した。インタビューは事前承諾を得てすべて録音し、テープ起こしをしたうえで翻訳して資料とした。

参与観察については、1. 編集会議への参与、2. 編集室の観察、3. 取材への同行（ユーロニュースのみ）の3つの方法で行った。ただし、チャンネルニュースアジアに関しては、いずれの方法も許可が得られなかったため、収集できたデータは記者・編集者へのインタビューのみである。

第一回目の主なインタビューデータは以下の通り（肩書は調査時点のもの。敬称のMr. およびMs. は男女の区別のみで使用）。

Mr. Chay Ting Ngee, Channel NewsAsia news, Deputy Chief Editor, 24 Aug. 2007 at Channel NewsAsia Headquarters in Singapore.

Mr. Jeremy Hillman, BBC World, News editor, 6 Sep. 2007 at BBC TV Center in London.

Mr. Luis Rivas, Euronews, Director of News and Programmes, 30 Oct. 2007 at Euronews Headquarters in Lyon.

Mr. Frank Sesno, CNN, Special Correspondent, 27 March 2008 at CNN Washington Bureau in D.C.

Mr. Nick Walshe, Al Jazeera English Channel, Head of Intake, 17 July 2008 at Al Jazeera English Headquarters in Doha

第二回目の主なインタビューデータは以下の通り（同上）。

Mr. Salah - A. A. Khadr, Executive Producer, Listening Post, 16th June 2010 at AJE London Centre

Mr. Ben Rayner, Executive Producer, Europe News, 19th of July, 2010 at London Center Al Jazeera English

Mr. Salah Nagn, Director of News, News Department, 22 July, 2010 14:30 at AJE Headquarters in Doha

Mr. Ramsey Zarifeh, Executive Producer, News Department, 22 July, 2010 at AJE Headquarters in Doha

Ms. Sarah Worthington, Head of Output, News Department, 28 July, 2010 at AJE Headquarters in Doha

Ms. Heather Allan, Head Newsgathering, News Department, 28 July, 2010 at AJE Headquarters in Doha

Mr. Al Anstey, Director of Media Development, Al Jazeera Network, 29 July, 2010 at AJE Headquarters in Doha

Mr. Will Stebbins, Bureau Chief for the Americas, Al Jazeera English, 10 September 2010 at AJE Washington Center

Mr. Frank Sesno, Director, Professor of Media and Public Affairs and International Affairs (former CNN's bureau chief of Washington), 9 September, 2010 at GWE

Mr. Eric Ruder, Supervising editor of International Newsource, 14th of Sep. 2010 at CNN Headquarters in Atlanta

Ms. Katherine Green, Senior vice president of CNN International, 14th of Sep. 2010 at CNN Headquarters in Atlanta

Mr. Simon Wilson, Americas Bureau Chief, BBC News, 9 September, 2010 at BBC Washington Bureau

Mr. Sean Klein, Europe Bureaux Editor, BBC News, 25 May 2010 at International Press Center in Brussels

Mr. Jeremy Hillman, Editor, Economics & Business Centre, BBC News, 2 June 2010 at BBC Television Centre

Mr. Andrew Roy, Head of News, BBC World News, 2 June 2010 at BBC Television Centre

Mr. Peter Eustace, Editor, World Business, Economics & Business Centre, BBC News, 8th June 2010 at Media Centre, BBC

Mr. Jeremy Nye, Head of Audience Insights, BBC Global News Division, 8th June 2010 at Bush House, BBC

Mr. Alistair Burnett, Editor, The World Tonight, BBC News, 4 June 2010 at BBC Television Centre
Mr. Sergio Cantone, European Affairs Correspondent, Euronews, 27 May 2010 at Brussels bureau
Mr. Peter Barabas, Editor in Chief, 13th of July, 2010 at Euronews headquarters in Lyon
Mr. Lucian Sarb, Director of news and programmes, 6th of July, 2010 at Euronews headquarters in Lyon
Mr. Stephane Parizot, Deputy Editor in Chief, 13th of July, 2010 at Euronews headquarters in Lyon
Mr. Walid Chamak, Marketing Manager, 13th of July, 2010 at Euronews headquarters in Lyon
Ms. Ruth Pereira, Executive Editor News, 16 and 17 Aug. 2010 at Channel NewsAsia HQ in Singapore
Ms. Han Chuan Quee, Vice President of Corporate Service, 16 Aug. 2010 at Channel NewsAsia HQ in Singapore

参与観察のデータは以下の通り。

BBC WN 編集会議 2010年6月3日 (2回)

Euronews 取材同行 2010年5月27日 (ブリュッセル日本部記者会見) 編集会議 2010年7月13日 (2回)

AJE 編集会議 2010年7月23日

CNNI 編集会議 2010年9月14日

3. 分析結果

各局に共通する傾向・戦略に関して得られた知見の要点は以下の通り。

1). 主要地域の視聴ピークタイムをにらんだニュース編集

今回、調査対象とした5つの放送局のうち、受信可能地域がリージョナルなもの、Channel News Asia (以下、CNA)のみであり、他の4局はAvailabilityに差はあるが、ほぼ全世界で視聴が可能となっている。こうした状況の中、これら4局は、常に主要地域の視聴ピークタイムを意識した編集を心がけていることが分かった。ここでいう主要地域とは、アメリカ大陸、ヨーロッパ大陸 (特に西ヨーロッパ)、およびアジア (特にシンガポール・香港・日本) であり、また視聴ピークタイムとは、朝 (出勤時間前後の午前7時—9時) および夕方・夜 (夕食後の午後7時—10時) であるが、これらの地域別のピークタイムに合わせて、ニュースの選択を変えたり、放送順を変更したり、Long Version とShort Versionを使い分けていることがわかった。つまり、グローバルジャーナリズムといえども、地域のニーズに対応する努力をしているのであり、必ずしも単一の「グローバルニュース」を全世界に届けているわけではないことが分かった。

2). Multi Nationalな編集・取材スタッフ

どの局も本籍地としてのNationはあるわけであるが、グローバル (トランスナショナル) ジャーナリズムを体現するための、ナショナルバイアスの排除策の一つとして共通して採用しているのが、スタッフの編成をMulti Nationalにするという戦略である。ただし、局ごとに多少の違いがあり、最もMulti Nationalを徹底しているのが、Al Jazeera English (以下AJE) であった。CNN International (以下、CNNI)は、Multi Ethnicではあるが、Nationalityとしては米英人が比較的多い。Euronews (以下EN)は、ヨーロッパ内のMulti National化は最も進んでいるが、その他の地域出身のスタッフは少ない。CNAはアジア中心にMulti Nationalであり、かつMulti Ethnicである。BBC World News (以下、BBCWN)は、ロンドンの編集スタッフはMulti Nationalであるが、特派員はBBCと共有しているため、ほとんどBritishである。ただし、特派員は、国際経験 (海外在住・留学および長期取材) の豊富な人材を揃えるようにしている。

3). 用語の慎重な選択

各局とも、グローバルな視点を担保するため、ナショナルなバイアスのかかった用語を慎重に避けており、それに関するマニュアルやトレーニング (社内スクール) がある放送局も多い。例えば、尖閣諸島を、Disputed Islandsと呼称し、中国名も日本名も使わないといった具合である。

4). 番組編成基地局のグローバル化

CNAを除く4局は24時間放送をしているが、すでにAJEが実現しているように、24時間を日中のタイムゾーン別に3ないし4つのエリアに分け、編集権も含めた放送基地局を配置して、数時間おきにHQが太陽とともに移動していくようなシステムを構築しようとする動きが目立った。この理由は、昼間のスタジオからのライブ放送の方が、より視聴者に生き生きと見えるからというものである。ただし、この方法をとるには、複数の編集・編成局間の連携と編集方針に対する共通認識が不可欠のため、AJEではテレビ電話システムを多用してグローバルな編集会議を頻繁に開催している。

最後に、CNNI、BBCWN、AJEの3大グローバルジャーナリズムに対するインタビューの内容を編集方針にかかわる論点別に整

理・比較したのが下の表である。

3大グローバルジャーナリズムインタビュー比較分析表

	グローバルな視点	担保法	Live報道	分析報道	ビジネス・経済情報	オーディエンス像	差別化戦略	今後の方向性	コメント
CNNI	複数のパースペクティブを提供。時間的な制約がある場合は、最も一般的・共通的なものと、最も異質なものの二つを選んで伝える。	人種・国籍・国際経験の多様な人材の確保。アトランタの編集局だけで20以上の異なる国籍が存在。	視聴者がCNNIに求めているもの。伝えるのではなく、見せることに精力を注いできている。ただし、BNは乱用気味なので抑えていきたい。	世界で起こっていることを関連させて伝えていく必要がある。我々は単なるHeadlineニュースをやりたいのではなく、分析を加えたい。	ビジネス・経済情報はだんだん世界共通の関心になってきているので、注力している。	国籍を意識せず、世界市民であるとの意識を持ち、共通の価値観を持つ層。過去数年間で「グローバル市民」の誕生を見た。	CNNIはグローバルジャーナリズムの中で最大の視聴者を持つ。視聴者はそのCNNIで何が伝えられているかに価値を見出す。	ソーシャルメディアなどの活用により、視聴者からの情報・意見を「世界の声」としてニュース報道に組み入れていく。	かつての、「アメリカにとっての重要なニュースが、グローバルニュース」というスタンスから、「グローバル市民」向けのニュースが必要という意識に変わってきている。世界中のネットワークと機動力を見せつけるBN・Liveの速さを売りにしてきたが、「グローバル市民」向けの双方向的で分析的なニュースにややシフトか。
BBCWN	すべてのサイドの意見を紹介すること。A Global Perspective は不可能で、Global Perspectivesを届ける。	記者の多国籍化を進めている最中。特派員による、現地語による取材。	24/7のグローバルジャーナリズムにとって、LiveとBNは必要不可欠だ。オーディエンスは基本的に今何が起きているかに関心があるからだ。	BBCWNが評価されているものは、他社より深いニュース分析。今後とも継続。	今や、ビジネス・経済・マーケット情報がグローバルな関心を集めるトップニュースになることは珍しくない。今後とも増強していく。	国際的なビジネスリーダーとオピニオンリーダーの層と、それを目指す若い層。オーディエンスの同質性は年々高まってきており、グローバルアジェンダを見出しやすくなってきている。	他局ではできないような、厳しい質問。テレビジャーナリズムで世界最多の特派員数。現地に生活しているものならではの深い視点。	アメリカ、アジア、中東、ヨーロッパという、ピーク時間帯別の地域ニュースの強化。放送センターのグローバルな多極化。	2008年にチャンネル名をBBC WorldからBBC World Newsに変更したのは、ニュース専門局化をより鮮明にするため。BBC特派員を共有しロンドンでの編集という現状から、WN独自の契約記者を増やしながらCNNI、AJEのようなグローバルな編集体制を目指す。脱British戦略？
AJE	原則はAJAと同様、One opinion and the other opinion. しかし、先行する2局に比して、「南」「一般人」からの視点を加える	カタールという地政学上のメリットを活かし、真の意味で相互に異文化下で教育を受けてきた人材を集める。60以上の国籍からなるスタッフの多様性とタブーのない自由な編集。	CNNIのように、何が何でもLiveとは考えていない。ストーリーによりけりだ。BNもしかり。	グローバルな事象が、一般の人々、途上国の人々などのような影響を与えるのかを分析する。	重要ではあるが、大企業・政府・マーケット中心の他局とは異なり、一般人・労働者の目線で報道する。	ターゲットとしているのは、既存の英米中心の英語による報道に必要な情報を見出せない人々。	ヨーロッパよりも、中東、アフリカ、アジア、南アメリカに多くの特派員を配置。既存の欧米中心のジャーナリズムではカバーされていなかった地域の人々の声を世界に伝える。	報道内容の一貫性を高めるため、それまでの4極輪番編集体制から2010年末にドーハの本部機能を24時間化。	スタート時は中東地域の情報に強いことをウリの一つにしていたが、徐々に中東以外にも特派員を増やし、今や完全にCNNI、BBCWNと並ぶグローバルな報道機関となっている。ライブ2局が国内向け放送と特派員をほぼ共有しているのに対し、AJAとは原則、記者を分けている。ライブ2局と異なり、「お金を稼ぐ必要はない」と言い切る。

ここからわかるのは各局の戦略の違いはあるにせよ、2、3年という比較的短期間の経年的変化の中でも、確実に「グローバルオーディエンス」というターゲット像が明確になってきており、そのターゲットのニーズに合わせ、従来のパッチワーク的な単なる情報提供から「グローバルジャーナリズム」としての使命感と方向性を持った報道にシフトしていこうという動きである。

以上

主な関連資料

「EU統合と汎欧州民間テレビニュース局『ユーロニューズ』—ナショナル・コンテキストからヨーロッパ・コンテキストへの試み」（『マス・コミュニケーション研究』第55号、167-185 1999年）

「『ヨーロッパ人』の誕生？—汎ヨーロッパニュースメディアとその「受け手」に関する一研究」（『東京大学社会情報研究所紀要』第59号、135-154 2000年）

「グローバル・ジャーナリズム」（共著、田村、林、大井編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』所収、p.178-195.世界思想社、2004年）

『「グローバル・ジャーナリズム」は可能か—欧米とイスラーム世界のメディアからナショナルな視点を超えるジャーナリズムを考える—』（内藤耕、阿部りとの共同ワークショップ）日本マスコミュニケーション学会2006年度秋季研究発表会、ワークショップ企画・発表（2006年11月11日（土）、成蹊大学）配布資料

『グローバル・ジャーナリズムの報道傾向』（金山 勉、竹村朋子との共同研究発表）日本マスコミュニケーション学会2008年度秋季研究発表会（2008年11月1日（土）明治大学）配布資料

『日本における「グローバルジャーナリズム」のオーディエンス像に関するパイロット的研究』（綿井 雅康との共同研究発表）日本マス・コミュニケーション学会2010年度秋季研究発表会（2010年10月30日／会場：東京国際大学）配布資料